

『もりおかの短歌』

冬の部 優秀賞十首

ぎんが ゆ てっどうま

銀河行く鉄道待ちて

ていしやば ひと かた

停車場の人と語れり

たくぼく

啄木のこと

岡山県岡山市 才本 有香

ゆき あさくも

雪の朝曇るガラスに

よんさい

四才のちひさき指が

えが いわてさん

描く岩手山

ゆび

青森県八戸市 田茂 博之

あさゆう

朝夕の橋から望む岩手富士

たんしん

单身も良し

よ まち

もりおかの街

一関市 吉田 寛一

鬼やらひのおに

さざめきを聞く夕まぐれき ゆふ

み社近きもりおかの街やしろちか まち

青森県上北郡七戸町

大串

靖子

押し寄せる人々の波お よ ひ と なみ

太鼓の波にあなたを探すたいこ なみ さが

中央通りちゅうおうどお

長野県長野市

酒井

路華

公園の啄木の碑を詠み終えてこうえん たくぼく ひ よ お

「じゃじゃ麺食べよう」とめんた

君は言ったねきみ い

宮城県遠田郡涌谷町

渋谷

裕子

師走来てしわすき

昔の友と飲む酒はむかし とも の さけ

くぐる暖簾の数だけ楽しのれん かず たの

盛岡市

赤坂

昌信

喜寿きじゅとなり雪ゆきの城跡しろあとのほ上りきて

たくぼく かひ

啄木たくぼくの歌碑かひに

わか

若さわかをもらふ

盛岡市 八重樫 敏夫

穏おだやかに夢ゆめを語りし人かたもいて

おだや

ゆめ

かた

ひと

「擬宝珠ぎぼしゅ」という名なの

ぎぼしゅ

な

小さな酒場ちい さかば

ちい

さかば

東京都練馬区 久慈 博子

今は亡きいま な

いま

な

父ちちの代わりかに迎えむかしは

ちち

か

むか

ありがたきかな故郷ふるさとの山やま

ふるさと

やま

神奈川県横浜市 勝政 英人

〔講評〕 秋祭りのころから歳晩を経て、お正月、そして  
厳寒の季節が「冬の部」に当たります。もしかしたら応募  
作品は少ないのでは、という不安をよそに総数144  
首の応募は嬉しい驚きでした。冬の盛岡に旅行者をはじめ  
め多くの人々の往来のあることを知り、寒さに耐えつつ  
もエネルギーに満ちた様々な場面に歌を通して出逢え  
たことも喜びでした。

平成三十年三月選 冬の部

投稿数 百四十四首

選者 松田 久恵